



地球大学アドバンス 第40回

[TOKYO SHIFT シリーズ 最終回]

"東京の記憶、丸の内の未来"

2011.3.7 mon

「地球大学」では今年度「TOKYOSHIFT」と題し、地球目線で東京の未来を議論してまいりましたが、その最終回にあらためて東京の中心「丸の内」の過去～現在～未来を考えてみたいと思います。

思えば、東京ほどダイナミックな「変態」を遂げてきた都市はありません。日本の中心(京都)から遠く離れた田舎であった江戸が400年前、徳川家康の手で突如日本の首都となり、日比谷入江も埋め立てられて大名屋敷街「丸の内」が誕生しました。やがて明治維新で撤去された大名屋敷跡の原っぱが、今度は三菱の手により「一丁ロンドン」「一丁ニューヨーク」と呼ばれたモダンなオフィス街に変貌。戦後の焼け跡からの復興スピードも含め、こうした東京の絶えざる変貌の過程は、「リセット上手」な日本人の気質の表れかもしれません。

しかし、「変化を厭わない」性質は、「文化的な健忘症」に陥る危険性もはらんでいます。また、その場ごとの対応に始終し、「なぜ、どんな変化が必要なのか?」「どこへ向かうための変革なのか?」という原理的な全体観を欠く思考は、その変化の飛距離を小さくしてしまうでしょう。それは、たとえば後藤新平など「東京のグランドデザイン」の中途半端な遂行などにも表れているかもしれません。(昭和天皇が「後藤の計画が完遂していたら東京の戦災はずっと軽く済んでいたろう」と述懐されたエピソードもあります。)

資源制約、環境負荷、少子高齢化という3つのリスクに直面して、東京は今また「第三のリセット」の時を迎えています。50年先の東京が、二〇世紀型の一極集中と通勤文化(郊外住宅と中央オフィス街の分離)の延長に成立しうとは思えません。当然「丸の内」の位置づけも、東京や日本の構造転換とともに変わらざるを得ないでしょう。

今回は、丸の内「三菱一号館」の復元作業にもブレーンとして関わり、東京の歴史の「生き字引」としてNHK「プラタモリ」の案内役もつとめる岡本哲志氏に、多層的な時間スケールで東京と丸の内のなりたちをレビューして頂き、東京の新たな未来にむけて何をどのように再編集していくのか、縦横に議論してみたいと思います。

[topics]

- 東京というまちの基本構造とその成り立ち——数十年～数万年の多層的な時間の積層
- 丸の内や日比谷のあちこちに残る「土地の記憶」「都市の履歴」
- 関東圏あるいは日本列島のなかでの江戸・東京の地勢的、文化史的位置づけ
- 東京と地方、都心と郊外の構造転換～分散化・コンパクトシティ時代の東京ビジョン
- 50年、100年の計でTOKYOの未来、「丸の内」の未来を考える

開催概要

日 時: 2011年3月7日(月) 18:30～21:30

ゲスト: 岡本 哲志氏

(都市史研究、法政大学サステイナビリティ研究教育機構研究員)

企画・司会: 竹村 真一 氏

Earth Literacy Program 代表

エコツェリア・コンテンツプロデューサー

会 場: 新丸ビル10階「エコツェリア」

地図: <http://ecozeria.jp/access.htm>

定 員: 50名(定員になり次第締め切りとさせていただきます)

参加方法: 事前登録が必要です

事前登録URL <http://www.ecozeria.jp/earth/>

参加費: エコツェリア会員企業に所属の方: 無料

※名刺にて照会いたします。名刺(社員証)を必ずご持参下さい。

エコツェリア会員企業非所属の方: 有料2,000円

プログラム 18:00 受付開始/18:30 開演/20:30 懇親会/21:30 閉会